

令和3年度 宇都宮市立陽南中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

本校では、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領等に示された教育の目標や内容及び本県の教育行政の方針、さらに宇都宮市民憲章、宇都宮市学校教育スタンダード、陽南地区の教育的・文化的環境、本校生徒の実態等を考慮し、健康で明るく気力に満ちた21世紀を担う健全な生徒の育成のために、次の目標を設定する。

- 1 気力・体力・活力に満ちた生徒
 - 2 心情豊かで責任感の強い生徒
 - 3 自ら学び、創造性に富む生徒
- 生徒指標：「よく学び、よく鍛えよ」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人権尊重の精神を基盤として、確かな学力、豊かな人間性、健康や体力など、変化の激しい社会を生きるために必要となる「生きる力」を確実に身に付けさせる指導に力を入れていく。

また、人間力の形成に向けて、全教育活動を通じて、「ほめて伸ばす指導（自己存在感・自己肯定感・自己有用感など自尊感情を育む指導）」の充実を図り、自信と誇りをもって生き生きと学校生活を送る生徒を育成していく。

さらに、義務教育9年間を通して児童生徒の能力・態度等を育成していく観点から、小学校との連携を十分に図った小中一貫教育を推進するとともに、本校の伝統でもある地域に根ざした特色ある教育活動を一層推進していく。

こうした教育活動がより効果的に実践されるよう、学校における働き方改革を推進し、業務の効率化や労働時間の適正化を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）学習指導要領や宇都宮市学校教育スタンダード等の趣旨をふまえるとともに、生徒の実態や学校・地域の特性を生かした特色ある教育課程の編成・実施に努める。
- （2）生徒の実態をふまえた個に応じた指導など、指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに、家庭学習を充実させ、生徒一人一人の確かな学力の育成に努める。
- （3）共感的な生徒理解を基盤として、発達の段階に応じた生徒指導の充実を図り、望ましい人間関係や豊かな人間性・社会性の育成に努める。
- （4）道徳科の充実を図り、生徒一人一人の道徳的実践力を高めるとともに、読書活動や体験活動を一層推進し、生徒の内面に根ざした道徳性の育成に努める。
- （5）健康管理や体力づくり、食に関する指導の充実を図るなど、生徒が将来にわたって健康的な生活を送るための基盤づくりに努める。
- （6）生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育、進路指導を推進し、社会的・職業的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。
- （7）保護者や関係機関等との連携を十分に図り、生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や長期的な視点に立った特別支援教育の充実を図る。
- （8）陽南地区の児童生徒の豊かな心や確かな学力の育成を目指し、義務教育9年間を見通した系統的な指導や教職員の交流を通して、小中一貫教育の充実を図る。
- （9）よき伝統や教職員の創意工夫を生かしたり、地域の教育資源を積極的に活用したりする教育活動を推進するなど、特色ある学校づくりに努める。
- （10）積極的な情報提供など家庭・地域社会との連携を一層深めるとともに、地域協議会の活動の活性化を通して地域に開かれた信頼される学校づくりに努める。
- （11）教職員が、生徒と十分かつ適切に向き合う時間を確保するとともに、ワークライフバランスの実現のため、業務の効率化や勤務時間の適正化を図る。

【陽南地域学校園教育ビジョン】

地域に根ざした豊かな心を育む小中一貫教育 ～子どもの主体的な活動を通して～

テーマ：生きる力を育むための学力保障と学校生活適応能力の育成

～主体的・対話的で深い学びを通して～

4 教育課程編成の方針

(1) 編成の基本方針

- ① 関連する法令と学習指導要領の示すところに従って編成する。
- ② 校長の学校経営方針のもと、教育目標の実現を図るために編成する。
- ③ 新しい時代に生きる生徒に必要な資質・能力の三つの柱である「学びに向かう力、人間性など」「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」のバランスのとれた育成を通して、「生きる力」の醸成を目指して編成する。
- ④ 各教科・領域の指導に当たっては、今年完全実施される学習指導要領を踏まえ、生徒の実態に応じ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進め、一人一人の生徒が分かる授業の展開に努める。
- ⑤ 生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、心身の発達段階の特性を考慮して編成する。
- ⑥ 地域や学校の実態を考慮し、「特色ある学校づくり」の基盤となるように編成する。
- ⑦ 全教職員の参画と教師同士の連携・協力によって編成する。

(2) 教育課程実施上の留意事項及び授業時数の取り扱い（確保）について

- ① 年間授業時数を2期（Ⅰ期＝20週、Ⅱ期＝15週）に分け、全35週相当になるように計画する。また、各週29時間とする。
 - ・Ⅰ期（20週） 4月 8日～11月 7日
 - ・Ⅱ期（15週） 11月 8日～ 3月24日
- ② 総合的な学習の時間については地域の教育力を積極的に活用し、内容の充実に努める。今年度から、宇都宮学10時間を実施する。また、冒険教室・社会体験学習・修学旅行等で相当時間を先取りする。
 - ・第1学年・・・年間50時間（総合35時間＋先取り15時間：
オリエンテーション2＋冒険10＋文化祭2＋ふれあい文化教室1）
時間割の活動時間は、Ⅰ期週1時間、Ⅱ期週1時間 計35時間
 - ・第2学年・・・年間74時間（総合55時間＋先取り19時間：
オリエンテーション2＋社会体験学習15＋文化祭2）
時間割の活動時間は、Ⅰ期週2時間、Ⅱ期週1時間 計55時間
 - ・第3学年・・・年間70時間（総合55時間＋先取り20時間：
オリエンテーション2＋修学旅行16＋文化祭2）
時間割の活動時間は、Ⅰ期週2時間、Ⅱ期週1時間 計55時間
- ③ 各教科の年間授業時数は、別紙「年間授業時数表」に定める。
- ④ 1学年美術科と音楽科については、Ⅰ期において隔週交互に2単位時間を実施することで、週1.5単位時間を実施するものとする。
- ⑤ 定期テスト及び実力テストは、教科扱いとする。
- ⑥ 各行事等において、教科の指導項目と関連があるものについては授業扱いとする。
- ⑦ 年度当初のオリエンテーションについては、学級活動及び総合的な学習の時間のガイダンス扱いとする。
- ⑧ 出張等については、授業交換をするなど、実質的な授業時間の確保に努める。
- ⑨ 学校行事等の内容の精選に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【 学 校 運 営 】

- ・学年間の交流を促進し情報交換に努め、学校全体で風通しのよい学校づくりを推進する。
- ・全教育活動を通して、生徒間、生徒・教職員間、教職員間のよりよい人間関係づくりを推進する。
- ・生徒会活動の活性化を図るとともに、SDGsに関する取組を生徒自らが主体的に行おうとする意欲を育成する。
- 地域ボランティアへの参加など地域との連携を図った特色ある学校づくりを推進する。
- 小中学校間で課題の共有を図り、学校園全体で課題解決に取り組む小中一貫教育を推進する。
- ・各種たよりの発行やPTA・地域協議会への情報提供などを通して、家庭や地域との連携を一層深める。特に、ホームページや一斉メールなど情報機器を活用した情報提供の充実に努める。

・部活動の適正な実施など業務の適正化を図るとともに、教職員一人一人のワークライフバランスを実現するため、勤務時間を意識した働き方改革を推進する。

【 学 習 指 導 】

・「学業指導」の理念や「宇都宮モデル」を踏まえ、授業を展開・改善し、学ぶ意欲の育成や基礎・基本の確実な習得に努める。

・魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、課外学習体制を構築することにより、学力の基礎・基本の定着を図る。

○特別の教科「道徳」に対する理解を深め、道徳科の目標を具現化する授業の在り方や評価等について研究を推進するとともに、本校の生徒の実態に応じた年間指導計画を作成する。

○家庭学習の充実に向け、タブレット端末を活用しながら生徒一人一人の家庭学習の定着を図る。

・「宮・未来キャリア・パスポート」を活用し、系統性のある継続したキャリア教育（進路指導）の取組に努める。

【 児 童 生 徒 指 導 】

・教育相談担当、SCM、SC、MS、家庭、その他関係機関と十分に連携を図った教育相談体制を構築し、不登校生徒の減少に努める。

・いじめ防止にむけた効果的な取組を意図的・計画的に実践し、いじめの起こりにくい環境を構築する。また、いじめ調査などの充実を図り、いじめの早期発見・早期対応に取り組むなど指導体制の充実を図る。

・問題行動等の発生に対して、学校全体で情報の共有を図り、組織的に対応する体制を一層強化する。（報告・連絡・相談の徹底）

○外部講師等を招聘するなどして、スマートフォンなど情報機器の適切な使用について指導の充実を図り、ネットトラブル等の未然防止に努める。

【健康（体力・保健・食・安全）】

○交通ルールやマナーの重要性を理解させる指導に力を入れ、自他の生命の尊重に努める生徒を育成する。

・体力の向上や心身の健康の保持増進に心がけ、自ら安全に活動できる生徒の育成に努める。

○食に関する指導の一層の充実を図るとともに、生徒の健康・安全管理の徹底を図る。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 生 徒 の 姿	A1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上	○①「宇都宮モデル」などを踏まえ、全教科で「学び合う活動」を授業に取り入れ、生徒のコミュニケーション能力(発表力・発言力)の向上を図る。 ②生徒が学び合える活動等を工夫し、教師がコーディネートすることにより、生徒のよさや努力したことを認め、励ますことによって、生徒の学習意欲を喚起する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は88.7%で、目標を8.7ポイント上回っている。（昨年比較0.8p） 【次年度の方針】 ・「学びあう活動」（グループ活動や発表など）の目的や方法をより明確にすることで「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習活動や言語活動の充実を図る。
	A2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上	○①特別活動や道徳教育の充実を図り、学校生活全般を通して、相手の気持ちを考えた言葉遣いや態度を取るよう指導する。 ②各学年行事（冒険活動教室・社会体験学習・修学旅行等）において、適切な言動が取れるよう指導するとともに、社会性スキルを身に付けさせる。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は98.0%で、目標を18.0ポイント上回っている。（昨年比較9.3p） 【次年度の方針】 ・学級活動や道徳教育の充実を図り、学校生活全般を通して、相手の気持ちを考えた言葉遣いや態度を取るよう指導するとともに、良い言動が見られた時には認めたり称賛したりする。

目 指 す 生 徒 の 姿	<p>A3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学業指導の徹底を図るため、学級委員長や生活委員会が中心となって呼びかけを行い、生徒の自発的・自治的な活動の充実を図る。</p> <p>②学級活動や生徒会活動などの集団活動を通して規範意識の向上に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は87.4%で、目標を7.4ポイント上回っている。(昨年比較1.9p)</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒の自発的・自治的な活動の充実を図るとともに、学級活動や生徒会活動などの集団活動を通して規範意識の向上に努める。</p>
	<p>A4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①普段の学校生活や授業で正しいあいさつができるよう、教師が進んで範を示す。</p> <p>○②生徒会のあいさつ運動を推進させ、日頃から進んであいさつができる雰囲気、学校全体で作る。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は95.1%で、目標を10.1ポイント上回っている。(昨年比較0.4p)</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒会活動の継続的な取組を充実させるとともに、実践的な態度の育成に努める。</p>
	<p>A5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>○①キャリアパスポートを活用し、諸活動への取組や内容の振り返りを行い、目標の見直しや改善・向上につなげさせる。</p> <p>②キャリア教育との関連を図り、今の学びと将来のつながりを意識付けながら、学級活動での進路学習や教科学習を進める。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は85.1%で、目標を5.1ポイント上回っている。(昨年比較3.9p)</p> <p>【次年度の方針】 ・自己評価のための振り返りシート等を活用し、目標の見直しや改善・向上につなげさせPDCAサイクルを活用する。 ・キャリア教育との関連を図り、将来を見据えた取組になるように意識付けを図る。</p>
	<p>A6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①「交通安全教室」「薬物乱用防止教室」各保健講座を実施するとともに、他の教育活動との関連を明確にして指導する。</p> <p>○②地域学校園児童・生徒指導部会で、交通ルール指導に関する共通理解を深め、小学校と連携しながら指導に当たる。</p> <p>③登下校指導を実施し、交通ルールの順守を繰り返し指導する。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は93.9%で、目標を13.9ポイント上回っている。(昨年比較2.1p)</p> <p>・教職員の肯定的回答は91.8%で、目標を11.8ポイント上回っている。(昨年比較12.6p)</p> <p>【次年度の方針】 ・登下校指導や安全教育の充実を図り、生徒の規範意識の向上に努める。また、保健講座等の実施により、生徒の健康への意識向上を図る。</p>
	<p>A7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるように努力している。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①生徒に自分の生活目標を明確にもたせ、その実現に向けて助言・指導を行い、充実した生活を送らせる。</p> <p>②生徒会活動を充実させ、集団の向上や社会貢献に向けた活動の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は85.1%で、目標を5.1ポイント上回っている。(昨年比較3.9p)</p> <p>【次年度の方針】 ・「働く人に学ぶ」(1年)、「社会体験学習」(2年)、「修学旅行」(3年)を通して、社会との関わりの大切さを学ぶとともに、進んで社会貢献しようとする生徒を育てる。</p>
	<p>A8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①英語科の授業でALTとのコミュニケーションができる活動を取り入れる。</p> <p>②国際社会で活躍できる生徒の育成を目指し、英語によるコミュニケーションの大切さを伝えるとともに、豊かな表現力の育成に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は81.0%で、目標を1.0ポイント上回っている。(昨年比較0.1p)</p> <p>【次年度の方針】 ・国際社会で活躍できる生徒の育成を目指し、英語によるコミュニケーションの大切さを伝えるとともに、豊かな表現力の育成に努める。</p>

目 指 す 生 徒 の 姿	<p>A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①総合的な学習の時間の「宇都宮学」の中で、生徒に宇都宮の良さを実感できる活動を、企画・実践する。また、各種協力団体と連携を図りながら、生徒に地域のよさを実感できる取組の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は79.0%で、目標を0.1ポイント下回っている。（昨年比較1.4p）</p> <p>【次年度の方針】 ・「宇都宮学」の実施や、各種協力団体と連携を図りながら行う活動の中で、生徒に地域のよさを実感できる取組の充実を図る。</p>
	<p>A 10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>○①一人一台の端末と通信ネットワークの校内整備を進め、全職員・全生徒が、「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」使えるようにし、ICTを用いて、効果的な学習効果や習熟を図れるよう工夫する。</p> <p>②学校図書館の授業での活用を推進し、よりよい言語活動や豊かな心の育成に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は83.0%で、目標を3.0ポイント上回っている。（昨年比較1.4p）</p> <p>【次年度の方針】 ・タブレットPCの導入を受け、授業での効果的な利用の充実を図るとともに、思考力を高め、表現力の育成を目指した指導法の研究に努める。</p>
	<p>A 11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①日頃から相手の気持ちや立場を考えて行動するように心掛けさせる。</p> <p>②特別活動や道德教育の充実を図り、学校内だけでなく社会の一員としての自覚をもたせる。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は91.6%で、目標を11.6ポイント上回っている。（昨年比較3.0p）</p> <p>【次年度の方針】 ・地域行事等へのボランティア活動の充実を図るとともに、高齢者との継続的な交流機会の創出を検討する。</p>
	<p>A 12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①総合的な学習の時間を利用し、タブレットを使用したSDGsについての調べ学習を行い、身近な活動で何ができるかを考えさせる。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は81.6%で、目標を1.6ポイント上回っている。（昨年比較19.9p）</p> <p>【次年度の方針】 ・環境委員会の活動の充実を図るとともに、[SDGs]についての周知を図り、取組可能な活動への関心を高める。</p>
	<p>B 1 生徒は、礼儀正しく、適切な言葉づかいをしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①授業や部活動など各教育活動の機会をとらえて、時と場に応じた正しい適切な言葉づかいや礼儀について指導する。</p> <p>②生徒、教職員ともに、人権に配慮した言葉のやり取りができるよう心掛ける。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は82.8%で、目標を2.8ポイント上回っている。（昨年比較3.3p）</p> <p>・教職員の肯定的回答は79.6%で、目標を0.4ポイント下回っている。（昨年比較5.1p）</p> <p>【次年度の方針】 ・授業や各教育活動を通して、適切な言葉遣い等を指導する。また、人権感覚を磨くとともにTPOに応じた適切な言動ができる生徒の育成に努める。</p>
目指す学校の姿	<p>A 13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①特別な支援を必要とする生徒の実態把握や支援のあり方について、教員一人一人の理解を深める。</p> <p>②生徒指導係会や教育相談係会で、生徒の実態や状況について情報の共有化を図る。</p> <p>③不登校対策やQ・U検査などについて、教育相談の研修を通して相談技術の習得に努める。</p>	B	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は87.8%で、目標を7.8ポイント上回っている。（昨年比較△2.8p）</p> <p>【次年度の方針】 ・集団不適用や不登校生徒の解消を図るとともに、適切な指導法について研修を深める。</p>

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上 →保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学校生活の中で、相手の気持ちを考えて言葉遣いや態度を取るよう指導することを通して、人権感覚を高める。</p> <p>②いじめのアンケート(年間6回)や教育相談の結果を踏まえ、早期発見と再発防止への取組を全職員に徹底するとともに、「生徒指導だより」で保護者に周知する。</p> <p>③本校の「いじめ防止対策基本方針」や具体的な取組の様子をホームページや、保護者会などを利用して、保護者に周知し、家庭と連携して対策に取り組む。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は92.3%で、目標を12.3ポイント上回っている。(昨年比較△2.5p) ・保護者の肯定的回答は71.6%で、目標を8.4ポイント下回っている。(昨年比較△1.3p) <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート実施を継続するとともに、早期発見・早期解決に努める。また、生徒や保護者との信頼関係を深めながら未然防止や支援の充実を図る。
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①スタンダードダイアリーの確認を通して、生徒の思いや訴えを受け止め、適切な指導や相談を行う。</p> <p>②教育相談(年2回)やチャンス相談を通して、生徒理解に努める。</p> <p>③生徒の情報を多くの教職員で共有しながら、適切な支援の充実を図る。</p>	B	<p>【【達成状況】】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は85.7%で、目標を5.7ポイント上回っている。(昨年比較△10.5p) <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談(年2回)やチャンス相談を通して、生徒理解に努める。また、生徒の情報を多くの教職員で共有しながら、適切な支援の充実を図る。
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①支援が必要な外国籍または帰国生徒等の情報を的確に把握・共有し、保護者への情報提供や、本人への適切な支援を行う。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は87.8%で、目標を7.8ポイント上回っている。(昨年比較△2.8p) <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍または帰国生徒等の情報を的確に把握・共有し、適切な支援の充実を図る。
	<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 85%以上 →地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、学校行事や生徒会活動の充実に努める。</p> <p>②主体的・対話的で深い学びを意識した場面を意識的に設定し、生徒の自発的・自治的な活動ができるよう指導の工夫を図る。</p> <p>③生徒の実態に即した年間指導計画を作成し、学習や行事に取り組む意欲を高める。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は84.2%で、目標を0.8ポイント下回っている。(昨年比較△0.2p) ・地域の肯定的回答は100.0%で、目標を15.0ポイント上回っている。(昨年比較0.0p) <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や生徒会活動の充実に努めるとともに、生徒自らが考えたり、発表したりする場面を意識的に設定することを通して、取組への意欲向上を図る。
	<p>A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①「分かる授業」展開のための「一人一授業」を行い、参観レポートを作成するなど、相互研修を充実させ、個々の授業力を向上させる。</p> <p>②家庭学習の充実に向け、ICTの活用や助言、指導を的確に行うための研鑽し合う機会を作る。</p>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は89.4%で、目標を9.4ポイント上回っている。(昨年比較△1.0p) <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」の利用や「自主学習の支援」を通して、生徒の学習への意識向上を図るとともに、保護者への啓発に努める。 ・道徳の授業の充実を図る。

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①各主任や主事がリーダーシップを図るとともに、各学年や分掌間の連携を充実させる。</p> <p>②専門的な知識を持つ教職員との連携を深め、生徒支援の充実を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は91.8%で、目標を11.8ポイント上回っている。(昨年比較6.9p)</p> <p>【次年度の方針】 ・各主任や主事がリーダーシップを図るとともに、各学年や分掌間の連携を充実させる。</p> <p>・専門的な知識を持つ教職員との連携を深め、生徒支援の充実を図る。</p>
	<p>A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①部活動指導のガイドラインに則った適正な実施や指導に取り組む。</p> <p>②風通しの良い職場環境を維持するとともに、業務への連携協力や分散等を意識した改善を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は67.3%で、目標を12.7ポイント下回っている。(昨年比較△4.4p)</p> <p>【次年度の方針】 ・良好な職場環境の維持に努める。</p> <p>・業務内容の削減や効率化を図る。</p> <p>・部活動指導の適正化に努める。</p>
	<p>A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○①共同事務を推進し、業務のスリム化を図りながら、その効果を共有し、取組の充実を図る。</p> <p>○②小・中間で図書館、給食、保健室の情報を交流し、指導の充実を図る。</p> <p>○③教科部会や研究授業の参観を各機関で積極的に行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は81.6%で、目標を3.4ポイント下回っている。(昨年比較△3.3p)</p> <p>【次年度の方針】 ・小中一貫教育の効果を共有し、取組の充実を図る。特に、教科部会の活性化を図り、児童生徒の学力向上に努める。</p>
	<p>A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 →保護者の肯定的回答 85%以上 →地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○①「魅力ある学校づくり地域協議会」を有効活用して、学校運営の充実を図る。</p> <p>○②地域指導者と連携した授業や活動を計画的に実施する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は81.2%で、目標を3.8ポイント下回っている。(昨年比較△3.7p)</p> <p>・地域の肯定的回答は100.0%で、目標を15.0ポイント上回っている。(昨年比較0.0p)</p> <p>【次年度の方針】 ・「地域協議会」との連携を充実させるとともに、「働く人に学ぶ」(1年)や「社会体験学習」(2年)における地域指導者と連携して教育活動の充実を努める。</p>
	<p>A 23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 →保護者の肯定的回答 85%以上 →地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○①新型コロナウイルスを考慮し、地域行事でのボランティア活動以外にも、ボランティアの在り方を認識できるような啓発を行う。</p> <p>○②PTAの関わる行事について、新型コロナウイルスの対策を協力して取り入れながら進める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は81.2%で、目標を3.8ポイント下回っている。(昨年比較△3.7p)</p> <p>・地域の肯定的回答は100.0%で、目標を15.0ポイント上回っている。(昨年比較0.0p)</p> <p>【次年度の方針】 ・ボランティア活動への参加を継続・推進させるとともに、校内での体験発表や報告の工夫に努め、生徒の達成感等の向上を図る。</p>

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上 →保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①安全点検を実施し、危険個所の把握や適切で迅速な対応を検討し、安全な教育環境の維持に努める。</p> <p>②教育活動全般について、安全で適正な活動への見直しを行う。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 87.8%で、目標を 7.8 ポイント上回っている。(昨年比較△6.5p)</p> <p>・保護者の肯定的回答は 87.1%で、目標を 7.1 ポイント上回っている。(昨年比較△4.6p)</p> <p>【次年度の方針】 ・学校環境の安心・安全確保に努める。また、PTA等と連携しながら、環境整備を図る。</p>
	<p>A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①教育活動に必要な物品の充足度を定期的に確認するなどの活動を通して、生徒の学習に必要な設備や教材の充実を図る。</p> <p>②生徒の「確かな学力」の育成のために、効果的な機器等の利用法や指導法についての研修を深める。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 85.7%で、目標を 5.7 ポイント上回っている。(昨年比較24.9p)</p> <p>【次年度の方針】 ・授業における生徒の学力向上に向けた効果的な教材・教具の充実を図る。また、その利用法や指導法の研修を深める。</p>
	<p>B2 学校は、生徒の「家庭学習」の充実・支援に努めている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>○①「家庭学習の手引き」や「家庭学習の記録」を活用し、宿題の出し方を工夫するとともに、1人1台端末を活用しながら、家庭学習の習慣を段階的に身に付けさせ、家庭学習の充実を図る。</p> <p>②生徒の「主体的に」「学びに向かう力」の育成に向けた指導法を工夫する。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 75.5%で、目標を 4.5 ポイント下回っている。(昨年比較13.8p)</p> <p>【次年度の方針】 ・家庭学習の大切さを継続して周知するとともに、効果的な学習教材(宿題)を準備し、保護者との連携を図りながら支援の充実に努める。</p>
本 校 の 特 色 ・ 課 題 等	<p>B3 生徒は、学校行事や部活動に意欲的に参加し活動している。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 90%以上 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学校行事において、本校の特色を継続・維持できるように、生徒の主体的な活動を支援する。</p> <p>②生徒会活動や部活動等において、リーダー育成に努め、伝統を守ろうとする生徒の育成を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 93.7%で、目標を 3.7 ポイント上回っている。(昨年比較△1.3p)</p> <p>・教職員の肯定的回答は 98.0%で、目標を 18.0 ポイント上回っている。(昨年比較0.1p)</p> <p>【次年度の方針】 ・本校の特色を継続・維持できるように、生徒の主体的な活動を支援する。また、リーダー育成に努め、伝統を守ろうとする生徒の育成を図る。</p>
	<p>B4 生徒は、必ずマスクを着用し、まめに石けんで手洗いをしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 90%以上 →教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①登校時・朝の会時に、マスクを着用しているかチェックする。</p> <p>②業間や昼休み時の保健委員の放送で、換気とマスクの着用、石けんの手洗いを呼びかける。</p> <p>③給食委員が、給食の配膳や片付けで、マスク着用や石けんでの手洗いを呼びかける。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 93.0%で、目標を 3.0 ポイント上回っている。(昨年比較0.5p)</p> <p>・教職員の肯定的回答は 95.9%で、目標を 5.9 ポイント上回っている。(昨年比較0.2p)</p> <p>【次年度の方針】 ・それぞれの委員会の活動を継続し、他の委員会とも連携しながら、感染症予防の徹底を図る。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

全評価項目の中で、肯定的評価が「数値指標」を上回っているものは、38の対象中29であった。(76.3%)生徒の肯定的評価は、23項目中19項目(82.6%)において80%を超えている。このことから、本校生徒は学校生活におおむね満足の状態であると考えている。

保護者の肯定的評価が80%を下回っているものは24項目中7項目で、その中には60%を下回るものが1項目ある。学校の取組についての説明や周知を図るとともに、指導の充実に努めていきたい。

学校関係者(地域)の評価では、13項目すべてにおいて90%を超える評価であった。今後も連携を図るとともに情報の提供等に努めていきたい。

昨年度から引き続き、今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの学校行事において、中止・変更となった。また、今年度から、中学校新学習指導要領完全実施であった。来年度は、新型コロナウイルス感染症が収束されたとき、各学校行事において、感染拡大前の方法に戻るものもあると考えられるので、前もって準備しておく。さらに、これまで以上に、地域・家庭に学校の情報を発信していかねばと考える。

【項目別について】

①「目指す生徒の姿」

・項目(A9・A10・A12)は、「宇都宮の良さ」「ICTや図書の学習活用」「持続可能な社会」という内容で、本校のGIGAスクール構想への対応や、総合的な学習の時間における「宇都宮学」・「SDGs」の取組等の効果であると考えられる。次年度も引き続き、生徒や保護者への周知・啓発に努めるとともに、実施可能な取組の充実に努めていきたい。

②「目指す学校の姿」

・項目(A14・A15)は、「いじめへの対応」「不登校への対応」という内容で、地域と教職員が低い。今後もきめ細かい対応に心がけ生徒支援に努めるとともに、いじめゼロ集会等の行事についても、情報発信をしていきたい。

・業務の効率化について(A20)は、評価が昨年より低い。引き続き、校務分掌の効果・効率化を図り、進めていきたい。

・小中一貫について(A21)は、保護者が低い。新型コロナウイルス感染症防止対策のため、中止されていたものもあるので、来年度は可能なものから実施し、情報発信をしていきたい。

・学習指導(学力向上)について(B2)は、「家庭学習の充実」の評価が昨年より低い。学校・家庭での学習において、家庭学習の重要さの啓発や具体的な取組を継続できるよう努めていきたい。

③「本校の特色・課題等」

・生徒たちの「学校行事や部活動に意欲的に参加している」様子が、自由記述のアンケート結果からも評価され、良好な学校生活を送っている生徒が多いと考えている。さらに主体的な生徒の育成を図るとともに、保護者や地域の信頼を得られるよう取り組んでいきたい。

7 学校関係者評価

(1) 自己評価【達成状況】について

- ・全員、「おおむね適切」または、「適切」であった。
- ・コロナ禍で行動制限がかかる中、多くの項目で数値達成できてよかった。
- ・目標値を下回る項目については、できるだけ丁寧な説明をしてほしい。
- ・全体的に適切な評価をされていると判断できる。
- ・コロナが落ち着き、通常の学校業務に戻ることで、再び数値が戻る事が考えられる。

(2) 自己評価【次年度の方針】について

- ・全員、「おおむね適切」または、「適切」であった。
- ・方針について、現状の問題点をよく把握しており、目標が設定できていると判断できる。
- ・調査だけで判断するのではなく、生徒の普段の行動から深く理解することが必要と考えられる。
- ・効率化を図る中で、質の低下や教職員のやりがい失われぬように良好な職場環境の維持に努めてほしい。

(3) 学校教育活動全般について

- ・良好である。次年度も地域学校園のリーダーとして努力してほしい。
- ・今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校行事等が縮小・削減され、残念であった。
- ・コロナ禍の中、感染防止対策を実施しながらの教育活動は大変であると思うが、ぜひ頑張してほしい。
- ・コロナ禍で実施できなかった行事等(歴史探訪ウォーキングや魅力ある学校づくり推進フォーラムなど)を忘れず、コロナが落ち着いたら再び実施してほしい。
- ・今後も地域との連携を深め、地域に開かれた学校づくりをお願いしたい。
- ・コロナ禍の中、新しい生活様式、新しい働き方スタイルによる生徒指導に大変ご苦労も多いと思うが、自らの健康に留意

し頑張ってもらいたい。

・変化が激しい現在に対応できるよう新しい学びを習得させるとともに、古き良きものにも目を向け、正しい判断ができるよう生徒を導いてほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

・学校関係者評価では、今年度も貴重なご意見をいただいた。自己評価の【達成状況】及び【次年度の方針】について、肯定的な評価（「適切」「おおむね適切」）をいただいた。ただし、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校公開がままならず評価できないというものもあった。今後も地域と協力しながら学校教育目標の実現に向けて取り組んでいくとともに、総合的な評価で記述した項目に重点を置きながら、次年度の方針を具体化する教育活動の充実につなげていきたい。

・いじめ防止対策、不登校生徒への支援等、全教職員の共通理解や組織としての取組による早期発見や早期解決が期待されている。いじめの実態把握を確実にできるよう、相談体制の確立や支援方法の多様化などを充実させていきたい。また、必要に応じて地域や警察等の関係機関と連携を図り、情報を共有できる体制づくりに努めたい。

・学力向上については、普段の授業改善はもとより、家庭学習の取組を学校全体で取り組んでいきたい。

・教職員の働き方改革については、「業務の見直し」や「意識改革」を進めているところではあるが、教員以外の専門スタッフとの連携を充実させることで、よりよい教育効果が得られるよう取り組んでいきたい。また、地域や学校の両方向からの情報発信・共有を心がけ、開かれた学校の中で生徒が生き生きと学習や生活に取り組めるよう、保護者や地域との協働を推進していきたい。